

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成28年10月号）

福島第二原子力発電所1～4号機は、燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

福島県民代表の方々による視察が行われました

- 当所の冷温停止維持に必要な取り組み状況を確認していただくために、10月18日、県民代表の方々や学識経験者などで構成される「福島県原子力発電所の廃炉に関する安全確保県民会議」御一行による現地視察が行われました。
- 会議では石井所長から震災直後の対応状況や燃料の冷却状況についてご説明しました。その後、使用済燃料プールでの燃料の保管・冷却、原子炉格納容器内の状況や電源強化対策の一環で震災以降に配備したガスタービン発電機等についてご視察されました。



震災以降の取り組み状況の説明



全電源喪失を模擬したシミュレータ対応



使用済燃料プール



原子炉格納容器内（压力容器下部）

3原子力発電所による「技術技能競技大会」を福島第二で開催しました

- 震災時の教訓から、これまで直営技術力強化訓練を重ねてきました。この度、当発電所構内において、3原子力発電所*による競技大会を10月20日、21日の両日で開催しました。
- 直営技術力強化訓練のうち、重機を使用したガレキの撤去や道路を復旧する訓練を、競技大会として実施しました。
- 社員自らが重機を操作し、模擬したガレキを撤去して道路を復旧できること、あわせて重機の操作だけではなく、作業に関する安全管理が適切に実施されていることなどを確認しました。

* 福島第二の他、柏崎刈羽、福島第一の各原子力発電所



競技前の安全確認



ガレキ撤去



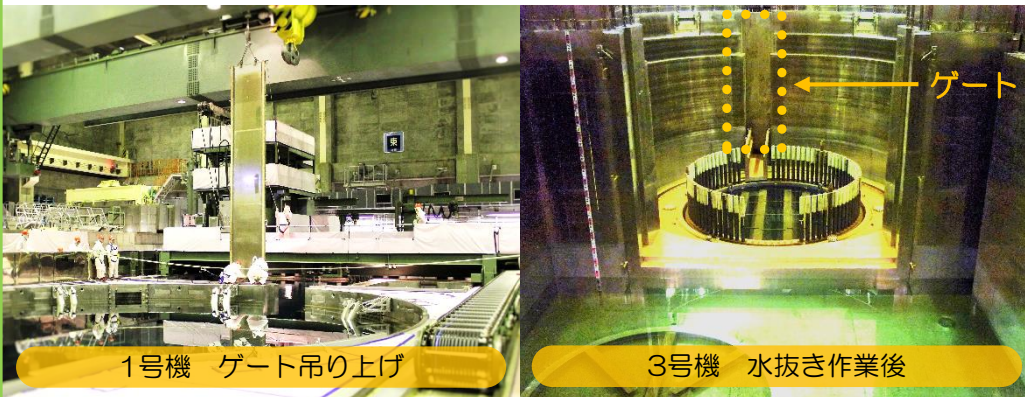
道路復旧



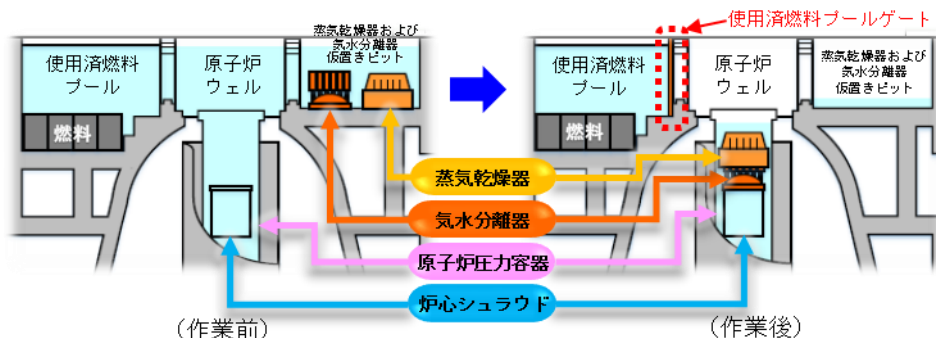
表彰式（福島第二チーム）

4号機で使用済燃料プールゲートを 閉じる作業が始まります

- 設備の維持管理の合理化および効率化の観点から、全てのプラントにおいて、原子炉内の燃料を使用済燃料プールへ移動しました。
- その後、これまでに1～3号機において、使用済燃料プールゲートを閉じる作業を実施しました。4号機についても、同作業の準備が整ったことから、11月7日より開始する予定です。



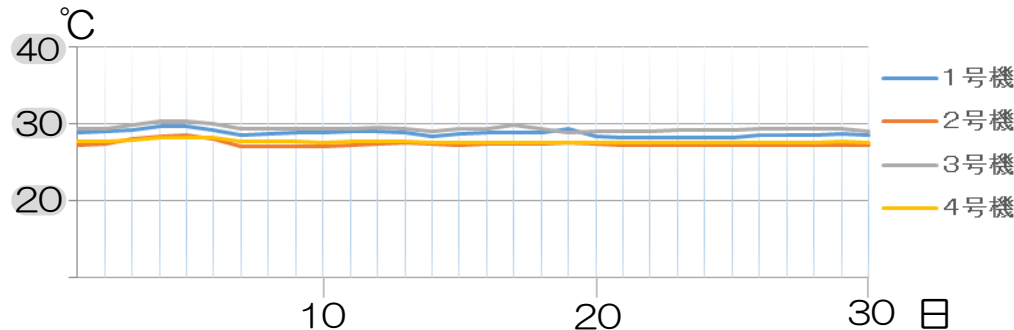
- 使用済燃料プールのゲートを閉じ、蒸気乾燥器と気水分離器を原子炉内へ戻します。その後、これらの機器を仮置きしていたピットと、原子炉ウェルの水を抜き、一連のすべての作業が完了となります。



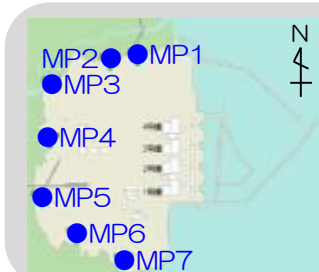
4号機使用済燃料プールゲート閉止および水抜き作業 (イメージ図)

燃料の冷却状況(9月分)

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。



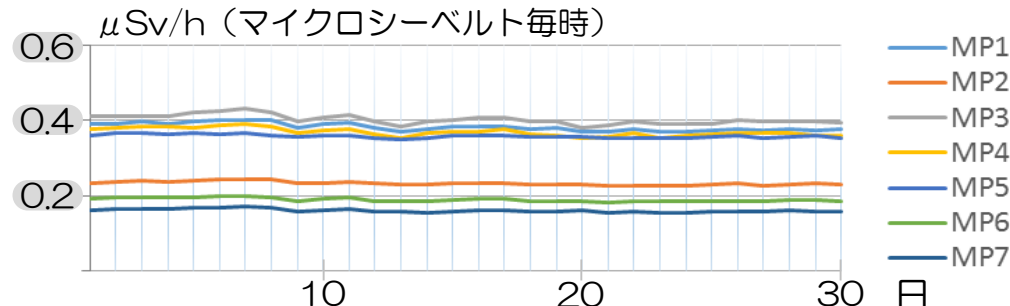
発電所周辺の放射線量計測状況(9月分)



構内に設置している全7基のモニタリングポスト(MP)により敷地周辺における空気中の放射線量の測定を常時行っています。

◇天気と放射線の関係について

空気中の放射線量については、天気によって変動します。一般に、雨が降ると空気中の自然の放射性物質が地表に落とされ上昇します。一方、雨による水たまりや積雪ができると、大地からの放射線が水や雪によって遮られ低下します。



使用済燃料プール水温度やモニタリングポストのこれまでの計測状況については、当所ホームページをご覧ください。

ホームページURL
<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

QRコード

